

常盤中学校コミュニティスクールだより

No. 2

令和7年度の第2回学校運営協議会が、10月7日（火）12時00分から常盤中学校の第1会議室で行われました。第2回は、生徒会本部役員の生徒も加わり、「あいさつについて～コミュニケーション力の向上～」をテーマに、学校運営協議会の委員の方々と議論を深めました。



〈第2回学校運営協議会 参加者〉

【学校運営協議会委員】

栗原 勝義 会長
山本 夕紀 副会長
志水 正 委員
柴崎 八重 委員
佐藤 マミ 委員
新船 孝子 委員
小金井忠夫 委員
菊地耕太郎 委員
熊坂 創 委員
玉崎 芳行 委員
藤田 雅彦 委員

【常盤中学校】

曳地 常和 教頭
大嶋 陽介 教頭
鳥居 孝輔 教務主任
石塚 健太 教諭
木津谷あみ 教諭
渡辺 麻美 教諭
平 聡太 生徒会会長
三比 穂美 生徒会副会長
木下 結愛 生徒会副会長
久保奈那実 生徒会書記
市川結里可 生徒会書記
羽根田善衛 生徒会書記



〈学校運営協議会の様子〉

はじめに、授業参観をしながら、教室のICT環境の整備状況、ICTを活用した授業実践、生徒の学校生活状況について、説明しました。

給食試食会からは、生徒会担当の先生や生徒会本部役員が参加して、委員の方と一緒に給食を食べました。給食試食にあたり、献立作成の意図や食材、給食指導及び食育の取組、さいたま市の学校給食の取組について、説明しました。おいしい給食を食べながら、委員の方と教員・生徒が交流する機会となりました。

熟議の時間では、まず、生徒会本部役員から常盤中学校や生徒会で取り組んできた「あいさつ」や「コミュニケーション力の向上」について、取り組んでいる内容や今後の見通しについて発表しました。

生徒会会長 平さん、生徒会副会長 木下さんより

【取組内容について】

あいさつの取組として、毎日生徒会本部役員と学級委員によるあいさつ運動を行っていること、小・中学校合同のあいさつ運動を実施したことの説明がありました。

【今後の見通しについて】

あいさつの輪を広げるために、委員会のメンバーだけではなく、全校生徒を巻き込んでいきたいと考えていることや、あいさつされる側の生徒が、あいさつ運動に参加する側になることで、あいさつの重要性やコミュニケーションの大切さをより実感できるのではないかとの提案がありました。あいさつで始まる、心地よい学校を作るために努力していきたいとの力強い決意表明がありました。

次に、本年度の熟議課題「あいさつについて～コミュニケーション力の育成～」をテーマに『あいさつをする意義の児童生徒への浸透』と、『児童生徒のコミュニケーション力向上』のために取り組んでいく内容について、グループごとに熟議した内容について、発表しました。

〈各グループの意見〉

グループ1 「知っている」→安心感。あいさつ→言葉のキャッチボール

学校→「あいさつ無い運動」の試行。あいさつから新しい関係づくりが始まることを実感させる。

家庭→おはよう、おやすみなど、普段の声掛けから定着させていく。

地域→中学生が参加できるイベント等を通じて、地域と中学生の接点を増やす。

グループ2

学校→あいさつの意義について調べる。あいさつの結果、どうなったのかを検証する。

家庭→誰かが外出する際には、玄関まで行って見送る。入浴など、家族に話してから行動する。

地域→あいさつをすることで防犯につながる。周りの人の違和感に気付くことができる。

グループ3

学校→あいさつ運動は、当たり前にならないよう、参加者を少しずつ変えるなどの工夫が必要。

家庭→恥ずかしいなど、あいさつできない理由に目を向ける。あいさつの大切さを伝える。

地域→学校での取組を、地域でも発揮してもらうことで、地域の輪を広げることにつながる。

グループ4

学校→あいさつ運動を部活動単位で行う。いじめゼロにつながるなど、あいさつの意義を伝える。

家庭→子どもの話に耳を傾けるようにする。目を見て聞き、否定せず、いいところを褒める。

地域→あいさつ運動の様子を録画し、小・中学校で共有する。地域との一体感を醸成する。

グループ5

学校→全クラスが交代であいさつ運動を行い、あいさつ運動の拡大化を図る。

家庭→おはよう、ただいまなど、毎日のあいさつを欠かさない。笑顔で接する。

地域→通勤、通学など、多くの人移動する朝はチャンス。あいさつで地域との連携を図る。

〈熟議を通しての感想〉

生徒会副会長の三比さんから、各グループの案を共有し、具体的な取組を決めていくとともに、生徒会本部役員としての役割は終わっても、常盤中学区に住む地域の一員として、よりよい社会を創っていけるよう、地域の輪を広げていきたいとの思いが述べられました。

生徒会書記の市川さんからは、地域住民の一員として、地域の方々とのコミュニケーションを深め、地域に恩返しをしていきたいとの決意が述べられました。

〈学校運営についての報告〉

玉崎校長から、学校運営についての報告を行いました。修学旅行で訪れた大阪万博において、ボランティアの方々とのコミュニケーションをとる本校生徒の姿があり、あるボランティアの方は、本校生徒たちの積極性や語学力に驚き、お礼の手紙をくださったこと、あいさつ活性化は、常盤中学校区をあげて取り組んでいるものであり、3年生の本部役員が「これからは、地域に恩返しをしたい」といってくれたことを受け、積み重ねてきたものがしっかりと引き継がれていると感じられること、光が強い分、影もあり、何気ない一言が原因となって、いじめで苦しんでいる生徒がいること、全国学力学習状況調査では、「幸せな気持ちになる瞬間はあるか」等、全国平均や埼玉県平均を上回っている項目が多く、前向きな生徒が多いと感じていること、地域、家庭がしっかりと子どもたちを支えてくれているおかげであると捉えていることについて報告し、今後も家庭との連携や地域との関わりを大切にしながら、組織的な学校運営をしていくことが述べられました。

〈学校運営についての報告への質問及び意見の申出〉

英語教育のさらなる充実のために、国際交流センター等の社会資源を活用してはどうかとのご提案をいただき、中国の日本語指導員を招いて生徒との交流会を実施する等、取組を進めているところである旨の説明を行いました。

〈第2回学校運営協議会のまとめ〉

山本副会長から、授業参観では、生徒の様子や施設の確認ができ、給食試食会では、生徒が普段食べている給食を食べ、給食指導や食育の取組を知ることができたこと、熟議では、生徒会本部役員が加わることで、一段と活発な熟議となったこと、何かがあった時に、子どもが大人に相談しやすい関係づくりを普段から構築していきたいとの話をいただきました。

委員の皆様、ありがとうございました。